

——この2年4カ月を振り返り、率直な感想を教えてください。  
 (稲本) 前任の長谷川コーディネーターが4年間をかけて、総合的な探究の時間(以下、探究)の進め方や、学校の中でのコーディネーターとしての立ち位置の基盤を作ってくださっていました。そのおかげで、私は受け入れ体制が整った状況で着任することができました。最初から「生徒たちと何をしていくか」に注力でき、本当に楽しい時間を過ごせたと思っています。

——印象に残っている取り組みを教えてください。  
 (稲本) 3月に卒業した生徒たちとは2年間、一緒に探究に取り組んできました。先生方と試行錯誤しながら、生徒の反応を見つつ授業を作っていたので、とても印象に残っています。初年度の3年生も、成果発表にはそれぞれにドラマがありました。生徒たちと過

## 生徒たちと駆け抜けた 2年4カ月。

稲本 朱珠

ごした時間すべてが、私にとって大切な思い出です。

——次のコーディネーターに取組んでほしいことは？

(稲本) ビジョンにもある「卒業生のコミュニティづくり」を、次の3年間でぜひ実現してほしいと思います。大学に進学した子や社会人になった子が、まちのために何かをやりたいと思ったときに、相談できる存在としてコーディネ



探究学習の一環で開催した「かやだにまつり」の様子  
 (令和6年5月12日開催)

——自己紹介をお願いします。  
 (河邊) 出身は北海道です。サッカーをするために宮城県の高校へ進学しました。大学を卒業してからは、働きながら社会人女子サッカーチームに所属していました。その後、宮城県新富町の地域おこし協力隊として「女子サッカーチームの立ち上げ」に関わり、初期限バーとしてプレイしました。一度サッカーから離れたことが、「やっぱりサッカーがしたい、

## サッカーから学んだ力を今、 高校魅力化へ。

河邊 花観

関わっていたい」という気持ちが強くなり、ずっと声をかけてくれていた高校時代の先輩を頼って丹後に来ました。現在は京丹後市の「まちの企画部」に所属しながら、女子サッカーチーム「KYOTO TANGO QUEENS」の選手兼コーチをしています。

——「コーディネーターをやってみよう」と思われたきっかけは何ですか？  
 (河邊) 転職を考えていたとき

ネーターが関われる可能性があると思っています。

——最後に高校生や地域の方にメッセージをお願いします。  
 (稲本) 高校生たちには、将来の土台となる「生きる力」を探究を通して身につけてほしいです。一度は自分で「やろう」と決めて取り組むこと。そして自分だけでやるのではなく、誰かと一緒に挑戦

したり、仲間のやりたいことに協力したり——、そういう経験を楽しんでほしいですね。

地域の皆さんには、いつも無理なお願いにも応えていただき、本当に感謝しています。なかなか目に見えない部分もありますが、「将来は帰ってきたい」と話す生徒もいます。これからも温かく見守っていたけるとうれしいです。



「第2期高校魅力化ビジョン」を手にする河邊さんと(左)と稲本さん(右)

【特集】高校魅力化事業、第2ステージへ。

## 受け継がれる意思、 3代目コーディネーターが着任へ。

### 地

域の高校の魅力を高め、地域と高校をつなぐ役割を担う人材、「高校魅力化コーディネーター(以下、コーディネーター)」。与謝野町では、町内唯一の高等教育機関である京都府立加悦谷高校(現・宮津天橋高校加悦谷学舎、以下「加悦谷学舎」)に、府内公立高校としては初めて、平成31年4月にコーディネーターを配置しました。この取り組みは、生徒たちの「故郷への愛着」や「学ぶ意欲」を高めることを目的としています。

コーディネーターは、地域資源と学校の教育・探究学習を結びつける企画の立案・運営や、関係機関との連絡・調整などを担っています。令和5年4月には、2代目コーディネーターとして稲本朱珠さんが着任。そして本年7月1日、3代目となる河邊花観さんにそのバトンが引き継がれました。今月号では、任期を終えた稲本さんの感想と、新たに着任した河邊さんの意気込みをご紹介します。